

アトリエ 琉游舎 だより 101号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/ 2021年3月24日発行
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

雀始巢 玄鳥至

(すずめはじめてすくう) (つばめきたる)

- 七十二候の10番目「雀始巢」は、二十四節気「春分」の初候にあたり3月20日頃を表す季節の言葉です。「玄鳥至」は13番目二十四節気「清明」の初候にあたり4月5日頃のことです。
- ちょうど皆さんが101号の琉游舎だよりを手にとられる頃、スズメは巣作りを始め、小鳥たちは繁殖期を迎えます。またツバメは南の国から渡ってきて家の軒下に巣を作る頃です。
- 草木が枯れ、動物たちも姿を消した冬の間も、鳥たちの活動は活発でした。コリーナの池の岸辺で身動きせず魚を狙う川鶺や鷺、悠々と泳ぐ鴨をめぐめて急降下する悪戯カラス、冬の畑の残り少ない白菜やブッコリーの葉っぱを丸裸にして食べ尽くした鳥は山鳩やカケスと言うのでしょうか、冬目立った鳥はいずれも大型・中型の強そうで貪欲な鳥たちでした。
- 冬の間どこに隠れていたのか、小型の鳥たちも暖かくなってちらほら姿を現すようになりました。食料も少なく大型の鳥にも襲われる可能性があり、冬越しも大変だったと思います。
- ツバメが人目につきやすい軒下に、雀が屋根と壁のすき間や人口構造物の隙間に営巣するのも、卵や雛を狙う他の鳥や蛇などの天敵から身を守り己の非力をカバーする智慧なのです。
- 弱肉強食、生存競争は自然界の掟とは言うものの、強者が弱者を食い尽くしてしまったら今度は自分より上位の強者にただ存在を脅かされるだけの存在に墮ちるでしょう。弱者と強者は相対関係・相互依存関係です。だから自然界には共存が成り立つのです。知らず知らずのうちに人間は人家の周りに巣を作る小鳥たちのガードマン役を果し、それを知る天敵はより強者の人間を恐れ、襲撃を控えるのです。もし人間が自然界最強の強者を自負するならば、弱者の根絶やしを黙認するのではなく、さりげなく弱者を庇護する眼差しを失ってはならないはず。勿論自然界だけでなく人間社会の中でもそうあるべきことは言うまでもありません。

3・4月スケジュール

3月			4月			
月	火	水	木	金	土	日
29	30	31	25 映画会13時半 居酒屋の会16時半	26	27	28
5	6	7	4月1日 映画会 13時半	2	3	4 写経会 13時半
12	13 読書会 13時半	14	8 映画会 13時半	9	10 詩話会 13時半	11
19	20	21	15 映画会 13時半	16	17	18
26	27 読書会 13時半	28	22 映画会 13時半	23	24	25 居酒屋の会 16時半
			29 映画会 13時半	30	5月1日	2

写経会

4月4日(日)13時半から

般若心経・自我偈・観音偈の手本を用意しています。初めての方もすぐにできます。一度トライしてみてください。

読書会13時半から

4月13日・27日(火)

日蓮の「立正安国論」と消息文を読んでいます。テキストと解説・訳文もすべてご用意。お気軽にどうぞ。

詩話会

4月10日(土)
13時半から

居酒屋の会

4月25日(日)
16時半から

いつの間にか季節は春です。春が始まる日は人それぞれ。私の場合はペランダの手すりが花粉で黄色く染まった日、凍結防止で閉めた水道の元栓を開けた日、鶯の初鳴きを聞いた日、ヒートテックから綿の肌着に着替えた日、畑を耕し畝を調えた日、などなど今の時期は毎日が春の始まる日です。この様な始まりの日をいくつも重ねることで、私は私の春を次々と身に纏っていきます。それは昨日の冬を脱ぎ捨てていくことでもあるのです。季節を移ろいととも身に纏い脱ぎ捨てていく、この繰り返しが日々を過ごし年を重ねていくことならば、63回目の春を身に纏おうとしている私は、62回の春夏秋冬を執着も後悔もすることなく軽やかに脱ぎ捨てることができてきたでしょうか。それは日々の行いが教えてくれることに違いありません。

あまりテレビを見ない私がたまたま国会中継を見ていたときのこと、そこでは自分の過去を脱ぎ捨てることに失敗したのか、他人の過去まで背負わされて身動きが取れなくなったかつてのスターが参考人として答弁をしていました。総務省の接待問題で国会招致された衛星放送会社の社長は、私が駆け出しのCM企画者だった40年前は、一度は演出をお願いしたいと誰もが思い描くCM業界のスターディレクターでした。多くの広告賞を受賞する中で最高権威を誇るカンヌ国際広告祭（有名な映画祭の広告版）グランプリを受賞した時は広告業界も私も大きなインパクトを受けたものです。この会社は外国テレビ映画の日本語吹替から始まりコマーシャル制作会社として成長してきました。会社の躍進を演出家として支え、経営陣として事業拡大の一翼を担った結果の社長就任、そして国会での答弁。縁なく一度も演出をお願いする機会はありませんでしたが、演出したCMは自分の仕事の参考のために必ず研究していました。その彼の、嘘を嘘として肯定し表情ひとつ変えない答弁に半ば感心しながらも、方便を超越した「嘘」の難攻不落の構えに驚かされました。

テレビCM草創期に大活躍した伝説の演出家注1は“リッチでないのにリッチな世界などわかりません。ハッピーでないのにハッピーな世界などえがけません。「夢」がないのに「夢」をうることなどは……とても嘘をついてもばれるものです”という遺書を残して自殺しました。私が広告業界に入る10年ほど前のことです。広告の本質を突いた言葉です。「～でない」という否定を「～でありたい」という願望の言葉に直せば絶望は希望にかわります。豊かで幸せで未来に夢を持ちたいという願いがあるからこそ、豊かで幸せな未来像を描くことができるのです。嘘の世界を描くのではなく、未来に実現するであろう世界を信じて描くことが広告表現の役割です。かの演出家は自分の「リッチ」にも「ハッピー」にも「夢」のどれにも「信」を置くことができず、逆にそれを「嘘」と信じてしまい、それを「方便」と信じられなかったことが彼の不幸でした。

重要な仏教用語のひとつに「方便」があります。サンスクリット語のウパーヤの訳語で「近づく、到達する」の意で「巧みな手段」とも訳されます。仏教の教えや実践は私たちには難しく理解も実行も困難なものです。それを親しみ・分かり易くその人の進度に合わせて示し、最終的に仏教の教えの本旨まで導く方法を「方便」と呼ぶのです。よちよち歩きの幼児の歩みに見えるかも知れませんが、その歩みはお釈迦様の巧みな手段に導かれて、確実に法灯明の指し示す所（安らぎの処）に向かっていきます。それがそれぞれの日々を生きていることであり。自灯明の照らす所を行い歩むと言うことです。私たちは自らの考えや計らいによって日々を生活していると思っているかもしれませんが、しかし私たちお釈迦様の弟子は、ありのままの毎日がたとえどんなに拙く難しい歩みの日でも、その一日もお釈迦様の与えてくれた方便の日々と信じることで、安らぎの処へと歩み続けることができるのです。「方便」はお釈迦様の与えてくれた道しるべなのです。

「方便」は今や「嘘も方便」という文脈で使われることが大半だと思います。目的のためならば正邪・善悪を問わず、嘘も便宜的な手段として認められる？という言葉です。仏教用語は人口に膾炙する間に本来と異なる意味になってしまうことがよくあります。僧侶たちは「方便」と称して信も行も伴わない教えをもっともらしく語り続けてきたのでしょうか。お釈迦様の教えを信じていないからこそ語ることでできる僧侶たちの「嘘も方便」の言葉です。かの伝説の演出家は自分の作る広告が人々を幸せの処に導く「方便」と信じることができず、ましてや「嘘も方便」とうそぶくこともできず、唯一残された絶望を選択してしまいました。私は広告人であったときは広告の持つ方便の力を信じ、表現に豊かさと幸せの実現の願いを込めて制作してきました。これはビジネスに携わる私の「願い・誓い・行う」ことだったのです。今の私は安らぎの処に常住することを「願い・誓い・行う」宗教人です。私のこの変身は「信行一致」と「誓願」がある限り矛盾無く成立するのです。私は広告の衣装を脱ぎ捨て、お釈迦様の教えの衣を身に纏っただけなのですから。

私は伝説の演出家の絶望を理解し共感します。ただ絶望に止まってしまうそれを希望に変える「信」を見つけることができなかつたことが悔やまれます。一方、国会で答弁する演出家には共感はできませんが、驚愕を覚えます。「嘘も方便」という迂遠な方法を取らずに嘘を目的としてしまっていることにです。本来嘘は手段です。目的はその人にとっては「真」ですから、私がそれを嘘を真に変える詭弁強弁と非難しても当の本人の目的である「嘘」はそれ自身「真」なのです。外部がいくらそれは不当と騒ぎ立てても目的の正当性を信じている人達にはなんの痛痒も感じないはずで、広告を嘘の手段と見て自殺した人、片や広告は嘘が目的と喝破してCM業界に一時代を築き、今もその信念を実践する人、その二人の間 琉游舎：戸井 出琉・恭子
にお問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152
矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850
メール：toi10lizuru@outlook.jp